

第2回連続テレビ小説を生かした博覧会推進協議会議事概要

日時：令和4年8月1日（月）13:30～15:00

場所：高知ちばさんセンター大ホール

1 開 会

進行：高知県観光政策課 仙頭課長補佐

2 会長挨拶

挨拶：高知県 濱田知事

3 委員の交代について

資料1 推進協議会委員名簿 新旧対照表

説明：高知県観光政策課 仙頭課長補佐

4 議題

進行：高知県 濱田知事

(1) 第1号議案

令和4年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

資料2 令和4年度 第一次事業計画（案）及び収支予算（案）

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

委員全体の賛同を以て第一号議案について承認

(2) 第2号議案

博覧会のKPI（目標設定）について（案）

資料3 博覧会のKPI（目標設定）について（案）

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

高知県林業振興・環境部 豊永部長

佐川町 田村副町長

越知町 小田町長

高知県観光コンベンション協会 岡林専務理事

高知市 松島副市長

高知県観光政策課 鈴木課長

委員全体の賛同を以て第二号議案について承認

5 報告事項

(1) 博覧会の名称とロゴデザインについて

追加資料 博覧会の名称とロゴデザインについて

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

(2) 関連事業の取り組みについて

・高知家のうまいもの大賞2023

資料4 高知家のうまいもの大賞2023チラシ

説明：高知県地産地消・外商課 山崎企画監

・牧野富太郎のふるさと・高知モニターツアーの実施状況

資料5 牧野富太郎のふるさと・高知モニターツアーの実施状況について

高知県観光コンベンション協会 岡林専務理事

・令和4年度高知城夜間イベント

資料6 令和4年度高知城夜間イベントについて

説明：高知県観光政策課 鈴木課長

6 その他

意見・質疑応答

発言：高知県観光誘致連絡協議会 藤本会長

- ・ コロナによって長くダメージを受けている観光関連業界だが、らんまんの放送には期待を持っている。放送によって牧野富太郎博士の偉業と高知の自然観光素材をPRできている。放送に伴う観光客増加が予想される中で、牧野植物園様のご協力を頂きながら牧野野菜を使用した統一メニューを展開したい。業界全体で牧野富太郎博士について認識し知識を持つことで高知の植物をお客様にガイド出来るところまで持っていけば、次の誘客にもつながる。県民ひとりひとりの方々と一緒にこの千載一遇の機会を利用して高知の観光を発展させていきたい。

発言：高知県おもてなし県民会議 植田会長

- ・ 高知県に来てくださった方をどんな風に満足させられるかが課題。目的地にスムーズに到着するための案内板や標識の設置、宿泊・観光施設の快適性はもちろん、県民みんながおもてなしをすることが一番大切。観光客への声かけなど、ちょっとしたことが観光客の心に残るもの。これまでも行ってきた高知城や竹林寺でのお茶の接待は、非常に喜んでいただき会話も生まれている。牧野植物園近隣だけでなく他地域の方にも資料を配布し、目を通してもらうことで、観光客が訪れた際にちょっとした心遣いが出来るのではないかと考えている。
- ・ 車で来られる方に向けたナビやオンライン上の地図サービスを用意してもらいたい。また、公共交通で来られた方に向けた県内を巡るツアーバスなども整備できないだろうか。車窓から路面に植えられた植物を楽しむことができたり、バス自体にラッピングを施したりすることで思い出に残る演出ができるのではないだろうか。
- ・ 高知はお金を儲けるのが下手だと思う。らんまんや牧野博士ゆかりのお土産や食事メニューなどを開発してみてもどうだろうか。県外だけでなく県内の人にも喜ばれるはず。多くの知恵を出し合ってまた来たいと思えるイベントにしてもらいたい。

発言：高知県酒造組合 竹村理事長

- ・ 牧野富太郎博士の認知度向上に伴い、現在ボタニカルブームが起きている。自然や植物に目を向ける人はますます増えてくると思われる。高知県の一番の売りとなる海山川の幸への注目も高まる。そしてそれらを引き立てる酒、明るい人、世界一楽しい宴を含めた「酒国土佐」だと思っている。コロナによって楽しい宴はここ数年出来ていない。このまま絶滅してしまうのではないかと酒造組合でも危機感を抱いている。らんまんの放送は千載一遇のチャンス。高知の自然を生かした食とそれを引き立てる美味しい酒、明るい人、世界一楽しい宴をしっかりと伝えていきたい。
- ・ 司牡丹酒造として、佐川町との連携をしっかりとっていきたい。佐川町観光協会事務局長に元広告センター松田氏を迎え、マスコミ対策を整えている。すでにNHKの撮影スタッフとの打ち合わせも進んでいる。牧野植物園と同じく若干駐車場が少ないことが不安。佐川町・酒造組合全体で盛り上げていきたいと考えている。

発言：高知県土産品協会 千頭幹事

- ・ コロナの影響によって、この2年間はほとんど新しい商品の企画がなされていない状態だったが、ここにきて各社とも来年に向けての新商品の企画が行われている。また、昨年から原材料や資材の高騰による価格帯の変化が起きているが、思ったよりは影響を受けてはいない。来年以降業界内が活性化するのではないかと予想している。
- ・ 来年3月の桂浜グランドオープンに向けて急ピッチで準備を進めている。ウェルカムゾーンとなる商業施設については博覧会と足並みをそろえるべく植栽計画に注力しようと考えている。太平洋・龍馬像・記念館・水族館に加え、文化の香りとともにゆっくりとショッピングや食事を楽しめるよう事業を進めている。

発言：日本郵便株式会社高知中央郵便局 肥本局長

- ・ 郵便局では、一部の局で「なないろ SDGS」と銘打ち、朝ドラにちなみ花でお客様をお出迎えする活動としてひまわりの種から花を咲かせる取り組みを実施。少しでも多くのお客様に来局時に和んでいただきたい。草花の活動は今後も継続していく。
- ・ 主力商品である年賀はがきの「寄付金付き年賀はがき」高知県地方版は、牧野植物園に全面にご協力いただき、牧野植物園を題材にした商品となる予定。現在本社と最終調整中。図柄の正式発表は8月下旬を予定。年賀状から、牧野富太郎博士の功績と牧野植物園の素晴らしさをひろく全国へ周知できればと思っている。
- ・ 郵便局は高知県をはじめ多くの自治体と包括連携協定を結んでいる。郵便局が持つ集客力とモノをお届けする力、郵便局が持つネットワークを挙げて、地域が盛り上がるようお手伝いをさせて頂きたい。

発言：香美市 依光市長

- ・ ログデザインが素晴らしい。牧野博士が何気ない植物の研究をされていたことがよく表れている。
- ・ 香美市香北町には「香北の自然公園」がある。牧野植物園を世界的な植物園にした香美市出身の山脇哲臣氏が監修し、香北町出身のキャスター福留功男氏の寄付によって出来上がった。非常に地味ではあるが、自然そのものの美しさがあり、専門家でないと整備が出来ない。牧野博士が愛した植物も、高知県の自然そのものの美しさ。地味ではあるがこの自然公園を観光地としてしっかりと売り出していきたい。

- ・ 自然公園の売りはアサギマダラという長距離移動をする蝶。自然公園にフジバカマという植物があることによってアサギマダラが飛来する。自然・環境教育としての利用や、観光協会による巨木ツアーなども造成している。らんまんを機に県と一緒にしっかりと盛り上げていきたい。「本物」として自然公園を整備していきたい。

発言：大豊町 大石町長

- ・ 梶ヶ森の取り組みについて。平成30年からアウトドア構想事業として県立自然公園の保護・保全と持続可能な活用を基本とする「①自然情報の収集・整備・活用について」「②エコツーリズム等を下支えする仕組みづくり」「③エコツーリズム等を下支えするハード整備」「④持続可能な地域づくり」からなる4つの方針を定めた。
- ・ これまでハード面の整備として登山道やサイン整備の立案・整備を実施した。重機や人工物をなるべく使わず環境に配慮している。また、来訪者の満足度向上のためソフト面では山荘梶ヶ森のビジターセンター機能強化を実施。登山道を地図に落とし込んだインフォメーションボードを作成。花の開花状況などの情報共有が行える。また学習支援として動植物に関する図書や展示物を充実させた。
- ・ 梶ヶ森エコツアーのガイド養成講座を実施した。資源に関する知識だけでなく安全管理や参加者同士の連携にも取り組んできた。修了生は21名おり、なかには講座をきっかけに大豊町内で新たなプログラムの造成を行う方もいる。今年度は県の補助金を活用し引き続きガイドを養成するほか、ガイドを取りまとめる団体を設立。観光ニーズに対応する体制を整備する。来訪者増加を見据えた、周辺観光施設と連携した体験プログラム造成・周遊ルート構築を実施していく。

発言：大月町 岡田町長

- ・ 大月町では月光桜が有名。四万十かいどう推進協議会大月支部、大月町観光協会によってさまざまなイベントをやっていただいている。平成29年、その中にガイド会を設立しており、これからの本町の観光に必要な組織である。現在は5名だが、博覧会と並行してこの組織を強固にして取り組んでいきたい。

発言：土佐経済同友会観光振興委員会 森委員長

- ・ 資料3の4.参考指標（サステナブルな要素等）について追加のお願いだが、ガイド養成講座の受講者数やガイドプランの造成数に加えて、結果となるガイドツアーの催行回数や売上高などを追加してほしい。将来的な指標になる。ガイド産業の誕生に期待したい。
- ・ 今後出てくると思われるこの博覧会の関連商品や関連メニューについて、開発数や売上高を追っていけると、県下全体の物販・地産外商に将来繋がるような商品づくりの起爆剤になると思われるので、ぜひ加えて頂きたい。

回答：高知県観光政策課 鈴木課長

- ・ どこまで県で数字を追っていけるかという課題はあるが、柔軟に加えていきたいと考えている。

7 閉 会

進行：高知県観光政策課 仙頭課長補佐

参考資料 令和4年度のスケジュールについて